

2008年(平成20年)11月14日 金曜日

☆20



上田氏



家氏



早野氏

仁科記念財団(東京都文京区、山崎敏光理事長)は13日、原子物理学やその応用に関し、優れた研究業績を挙げた研究

家・上田・早野氏が受賞

仁科記念賞

者に贈る「仁科記念賞」の08年度受賞者を、家正

則国立天文台光赤外研究部教授(59)、上田正仁(東京大学大学院理学系研究科教授(45)、早野龍五(東京大学大学院理学系研究科教授(56))に授与すると発表した。授賞式は12月5日18時から東京・丸の内会館で行い、3氏に副賞50万円がそれぞれ贈られる。

約129億光年前の銀河の姿が明らかになった。「引力相互作用する原子気体のボース・アインシュタイン凝縮の理論的研究」の業績に贈られる上田教授は、量子力学特有の現象ボース・アインシュタイン凝縮を理論的に考察。その理論が今年実験的に検証された。早野教授主導の研究グループは反陽子と電子の質量比を9ケタの高精度で決める手法を確立。基礎物理定数表を書き換えた。受賞理由は「反陽子ヘリウム原子の研究」。

日本経済新聞

2008年(平成20年)11月14日(金曜日)

★13版

社会 38

仁科記念賞に家氏ら3氏
仁科記念財団は13日、物理学で優れた業績を上げた研究者に贈る二〇〇八年度の仁科記念賞を、国立天文台の家正則教授(59)、東京大学の上田正仁教授(45)、東京大学の早野龍五教授(56)の三氏に授与すると発表した。授賞式は十二月五日に東京・千代田の東京会館で開く。家教授は米ハワイ州のすばる望遠鏡を使い、地球から約百二十九億光年離れた宇宙で銀河を発見した功績が評価された。